

同時資料提供

大阪科学・大学記者クラブ

平成 21 年 11 月 11 日
大阪市立自然史博物館
電話 06-6697-6222

担当：学芸課主任学芸員 金沢 至

特別陳列「ヘルマン・ヘッセ昆虫展」 ～少年の日の思い出～ を開催します

大阪市立自然史博物館では、平成 21 年 12 月 5 日(土)から平成 22 年 1 月 17 日(日)まで、本館 2 階イベントスペースにおいて、特別陳列「ヘルマン・ヘッセ昆虫展」～少年の日の思い出～ を開催します。

ノーベル賞作家でもあるヘッセは、神々の美しき創造物であるチョウ類を生涯にわたって愛しつづけ、きらめきながら消えゆく生命の神秘をうたいあげた詩歌・散文作品の数々を残しました。特に、むさぼるような恍惚感を表現した感動作『クジャクヤママユ』(1911)の改稿『少年の日の思い出』(1931)は、中学国語の教科書に 63 年間も掲載され続けており、わが国で最も多くの人びとに読まれた海外文学作品です。

この展示会では、ヘッセの故郷ドイツや終焉の地スイスから取り寄せたチョウ・ガの貴重な乾燥標本や、ヘッセ自身が少年時代に見たものと同じ 19 世紀末の図鑑から取り出した銅版画のチョウ・ガ、ヘッセ手描きの水彩画(複製)など、奥深く重厚な資料を用い、世界的文人の「自然美」への畏敬と感性とを具体的に表現します。

ヘッセの作品を、文章と水彩画と昆虫標本が融合され具現化することは、初めての試みであり、また、本展示会では、この度、ヘッセの採集品であるパルテベニヒカゲも初公開します。

【開催概要】

1. 名 称 特別陳列「ヘルマン・ヘッセ昆虫展」～少年の日の思い出～
2. 会 期 平成21年12月5日(土)～平成22年1月17日(日)
※休館日＝毎週月曜日(休日の場合は翌日)、年末年始の12月28日～1月4日
※開館時間＝9時30分～16時30分(入場は16時まで)
3. 会 場 大阪市立自然史博物館2階イベントスペース
所在地：〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23
最寄駅：地下鉄御堂筋線「長居」3号出口東へ800m、JR阪和線「長居」東へ1km
4. 主 催 大阪市立自然史博物館・日本昆虫協会
5. 協 力 岡田朝雄(監修・標本提供)、新部公亮(展示品作製)、木下總一郎(標本提供)、丹地陽子(イラスト)、日本鱗翅学会近畿支部、朝日出版社、岩波書店、郁文堂、三省堂、草思社、光村図書出版

6. 観覧料 大人300円、高校生・大学生 200円(常設展入館料を含む、30人以上団体割引あり)
※中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料。
7. 問合せ 大阪市立自然史博物館 電話:06-6697-6221
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

【ヘルマン・ヘッセ】

1877年、ドイツ南部のカルフに生まれた詩人・小説家。代表作は『郷愁』、『車輪の下』、『デーミアン』、『シッダールタ』、『荒野の狼』、『ガラス玉遊戯』などで、1946年にノーベル文学賞を受賞した。1924年に国籍を取得してスイスに住み、1962年に没した。

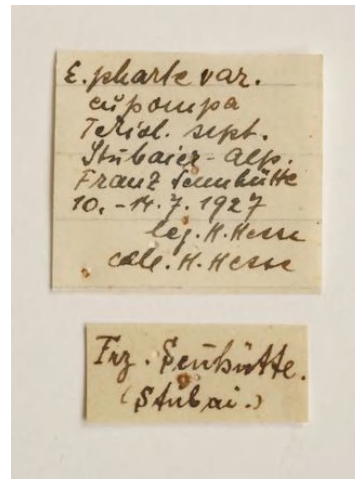
自然を愛し、中でも神々の美しき創造物であり、「驚き」の対象である蝶や蛾を生涯にわたって愛しつづけた。蝶採集のときめき、興奮、恍惚感、異国の蝶や高山蛾の珍種との出会いから生まれた「華麗な恋人」への思いを綴る散文作品、そして「色美しくそよ風のように飛ぶ」蝶をたたえ、「きらめきながら消えゆく」生命の神秘をうたいあげた詩歌の数々を残した。ヘッセは、姉のアデーレ宛ての手紙で「蝶の採集と魚釣りは私の人生の二つの大きな楽しみでした」と告白している。

【主な展示品 広報写真 素材見本】

1. ヘッセが採集したパルテベニヒカゲ (*Erebia pharte eupompa*) の標本とラベル

蝶を愛した文豪ヘルマン・ヘッセが1927年夏、オーストリア・インスブルックの南西24キロ地点にある宿泊施設「フランツ・ゼン・ヒュッテ」付近で捕えたパルテベニヒカゲ (*Erebia pharte eupompa*)。ヨーロッパの蝶・蛾の収集家である木下總一郎氏(大阪府摂津市在住)が所有する。ヘッセやシュナックなどドイツ文学作品を翻訳され、日本昆虫協会副会長でもある東洋大学名誉教授・岡田朝雄氏のコメント「ラベルの筆跡やヘッセの記録資料を調査したところ、本人の採集品に間違いないと確証を得た。ラベルの日付

【10-14. 7. 1927】の最終日(1927年7月14日)に、インスブルック市内のドルフガッセ(ドルフ小路)で描いた水彩画【Dorfgasse(14. 7. 1927)】が、ヘッセ画集の中に見出されたからである。ヘッセは第一世界大戦勃発(1914年)を機に、蝶・蛾の採集は止めたと思われていたが、この標本の出現により、ヘッセの採集履歴に関する私の考えを訂正しなければならなくなった。一度採集をやめた人でも、訪れたことのない土地へ行くときには、採集の準備をして行く。そこで初めての蝶を見たとき、これを捕獲することはよくあることである。第一次世界大戦終了後9年経った時点であるから、1927年にヘッセが採集したことは大いに考えられる。このような貴重な標本が、日本から発見されたことに驚きと喜びを感じている。」



2. クジャクヤママユ(*Eudia spini*)

『少年の日の思い出』の中で、主人公がエーミールから密かに盗んでしまうのがクジャクヤママユである。似た種類にオオクジャクヤママユやヒメクジャクヤママユがいるが、オオクジャクヤママユは12センチ以上あってポケットには入らないし、ヒメクジャクヤママユはヨーロッパ全土に普通に分布し、希少価値がない。希少種であり、*Nachtpfauenauge* (夜の孔雀の眼)というドイツ名からも、クジャクヤママユと考えられる。



3. ヘッセの作品とチョウ・ガの展示例

ヘッセの詩歌・散文作品を中央に配し、それらに登場するチョウ・ガの標本を幻想的にアレンジしてある。



■尚、画像が必要な場合は、下記メールアドレス宛てにお申込下さい。

h-kawakami@mus-nh.city.osaka.jp
(大阪市立自然史博物館 管理課広報 川上 まで)